

日医ニュース

2024. 12. 5 No. 1516

日本医師会
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail www.info@po.med.or.jp
https://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



トピックス

- 医療問題Q&A 2面
- 秋の叙勲・褒章受章者 4面
- 第31回日本臨床分科医会代表者会議 6面

令和6年度都道府県医師会組織強化担当役員連絡協議会

更なる組織強化を目指して、4県医師会の取り組みなどを共有



令和6年度都道府県医師会組織強化担当役員連絡協議会を10月31日、WEB会議併用により日本医師会館小講堂で開催した。当日は組織強化に向けて先進的な取り組みを行っている4県医師会からの活動報告の他、活発な意見交換が行われた。

会長あいさつ

城守国斗常任理事の司会で開会。冒頭あいさつした松本吉郎会長は、日本医師会会員数調査において、本年7月末に会員数が17万7000名を突破したことを報告し、組織強化への協力を謝意を示した上で、「組織強化に向けた取り組みは一過性のものではなく、常に重要課題として捉え、継続的に行っていくべきもの」と強調。医師会が「全ての医師を代表する組織」として、よりプレゼンスや発言力を高めつつ、国民の生命と健康を

角田副会長による説明

続いて、角田副会長が「さらなる医師会組織強化に向けて」と題して、(1) 医師会の果たすべ

守り、医師の医療活動を支えるという役割を果たし続けるためには、組織率の上昇傾向を維持・継続していくことが必要」と述べ、会費減免対象者への入会促進や日本医師会に入会していない先生方へのアプローチなど、引き続きの力添えを求めた。

また、組織強化には、会員数や組織率という観点から、一層の理解と協力を呼び掛けた。

点のみならず、「組織自体の質」を高めるという側面もあるとして、「会費減免期間に入会された先生方、減免期間終了後も医師会員として定着して頂くという流れを確立していく中で、医師会活動への理解とコミットメントを育んでいくという視点が重要」との考えを示し、一層の理解と協力を呼び掛けた。

最後に角田副会長は、国民の生命と健康を守り、医師の医療活動を支えるという役割を果たしていくためには、「会員数と組織率の増加・上昇傾向を維持・継続していくことが必要」と指摘し、

声を踏まえた医療政策を実現するためには、より多くの医師に医師会活動に参画してもらうことが、医師会の組織強化と発言力の強化につながる」と強調した。

(2) では、組織強化には「会員数の増加」と「質の向上」の二つの視点が重要と指摘。「そのためにも、まずは医師会に入会してもらい、医師会活動の意義や重要性、医師会の存在意義に対する理解を深め、いろいろな経験を積んでもらうことが重要」と述べた。

(3) では、日本医師会として、入会促進等にに向けた目標や会員定着に向けた課題解決の実現に向けたため、医師会会員情報システム(MAMIS)の導入や日本医師会役員が各病院等に直接働き掛けるなど、多くの取り組みを行っていることを紹介するとともに、「現状を把握・共有し、体制づくりの検討を行った上で、効果を検証する」というPDCAサイクルの必要性を強調した。

活動報告

次に、埼玉、三重、岡山、福岡の各県医師会からの活動報告が行われた。

①会費減免期間延長の周知と入会促進②臨床研修医への対応③来年度の臨床研修医への対応——に関する引き続きの協力を呼び掛けた。

次に、埼玉、三重、岡山、福岡の各県医師会からの活動報告が行われた。

桃木茂埼玉県医師会常任理事は、組織強化に向けては、(1) 入会を増やす、(2) 退会を減らす、(3) 組織力の向上——が必要と強調。令和5年度の活動として、加入率の低い病院などに対して積極的な呼び掛けを行った他、都市医師会会長会議に笹本洋一常任理事を招き、組織強化について解説してもらったことを報告するとともに、研修医に対して、研修病院セミナーや医学生、研修医等をサポートするための会も実施していることを紹介した。

今後については、①新しく研修医になった先生へ積極的にアプローチする②区分変更が必要になる初期研修終了時や会費減免対象の期間終了時の退会を減らす③研修医以外の非会員に対しても働き掛ける——ことを考えていると説明した。

田中淳子三重県医師会理事は、医師会入会を困難にしている要因として、(1) 会費の妥当性、

(2) 手続きの煩雑さ、(3) メリットの少なさ、(4) 興味の無さ、事業内容の周知不足——がある」と指摘。これらの問題に対しては、那市医師会に対する医学部卒業5年間の会費減免への協力依頼や、入会案内のパンフレットの刷新、若手医師に向けた、医学生・研修医等をサポートするための会や研修医との交流会を開催するなどの取り組みを行っている」と説明。今後は、勤務医に向けてのアピールやMCMC(Medical Council)：三重県全ての初期臨床研修病院が主となり、全16病院の院長が理事として、運営している「センター」との共同事業の実施の他、医師会入会のメリットを増やすことなどにも努めていくとした。

内田耕三岡山県医師会専務理事は、岡山県医師会の取り組みとして、(1) WEISS研修医の会の開催、(2) 臨床研修指定病院訪問、(3) 出前説明会、(4) 入会サポートデスク、(5) 勤務医部会・委員会の設置、シンポジウムの中で医師会入会を案内する他、大学医師会と連携するなど、さまざまな活動を行っていることを詳説した上で、今後取り組むべきこととして、中堅・若手人材の発掘・登用や勤務医サポートデスクの設置などを挙げた。

その後の協議では、「医療機関等に訪問した際の効果的な説明や内容の検討」「未加入の若手医師だけでなく、会費減免5年に対するアクションの重要性」「入会前だけでなく、入会後もメリットを感じてもらえるような情報発信の工夫」などについて、意見が交わされた。

最後に松本会長は、4県医師会からの活動報告のポイントを振り返った上で、「今回頂戴したご意見等も参考にしながら、更なる組織強化に向けて取り組んで頂きたい」と発言し、閉会となった。

御礼 — 令和6年9月能登半島豪雨への支援 —

日本医師会が協力を呼び掛けていた令和6年9月能登半島豪雨への支援に対して、総額1億3,982万6,930円もの支援金をお寄せ頂きました。深く感謝申し上げます。

支援金は被災地域の医療提供体制の復旧復興に向けて、石川県医師会に寄付させていただきます。

医療問題



Q 来年に日本医師会会長として特に注力する取り組みについて教えてください。



松本会長

A

2025年に特に注力する取り組みとしては、大きく5点あります。

令和8年度の診療報酬改定への対応

まず1点目は「令和8年度の診療報酬改定への対応」です。

令和6年度の診療報酬改定では、医療従事者の賃上げの必要性を粘り強く主張したこともあり、プラス0・88%のプラス改定となりましたが、物価高騰等を考慮すると、十分な財源とは言えません。

また、これから日本は未曾有の超高齢・人口減少社会を迎え、生産年齢人口が急激に減少することにより、医療界においても支え手の減少に直面することが懸念されます。こうした状況下にお

ても、私どもは国民に適切な医療を提供していく義務がありますので、医療従事者の更なる賃上げを実現し、他産業への人材流出を防ぐことも重要であり、その際には、公定価格により運営する医療機関はその上昇分を価格に転嫁することができないことから、十分な原資を確保することが必要となります。

また、令和6年度の診療報酬改定ではベースアップ評価料が創設され、令和6年度は2・5%の賃上げを目標とすることとなりましたが、その一方で令和6年春闘の平均賃上げ率は定期昇給込みで5・10%、ベースアップ分だけでも3・56%と非常に高い水準となっています。

すなわち、ベースアップ評価料による賃上げ率は、春闘との間に2・6%もの差があり、全く追いついていません。このままでは、他産業並みの賃上げが実現できないだけでなく、来年度の賃

上げもままならない状況です。現在の医療機関の経営状況では、これ以上の賃上げは到底不可能であり、このままでは人手不足に拍車がかかってしまい、国民に適切な医療を提供できなくなってしまう。

今後の地域医療を守り、地方経済を活性化するためにも、必要な賃上げを行い、医療従事者を確保していくことが不可欠です。

2点目は「参議院議員選挙」です。日本医師連盟に関する話になってしまいがちですが、来夏に予定されている「参議院議員選挙」において、日本医師連盟は比例代表の自民党公認候補者として、釜淵副会長を擁立することを決定しました。

釜淵副会長は、5期10年にわたって日本医師会の常任理事として、看護職の養成や新型コロナウイルス感染症対応など、多岐にわたる業務を担当し、医師会業務に精通しておられるばかりでなく、日本医師連盟も担当

欠です。石破茂内閣総理大臣は「物価に負けない賃上げ」を実施するとされていますが、日本医師会としても令和6年度の診療報酬改定で新設されたベースアップ評価料の届出・算定をできるだけ多くの医療機関に実施して頂けるよう取り組んでおり、このままでは人手不足に拍車がかかってしまい、国民に適切な医療を提供できなくなってしまう。

公定価格により運営を行っている医療業界においても、物価高騰を上回る賃上げが実現でき、地域でこれらの施設が確実に存続できるよう、石破総理にはぜひ、お力添えを賜りたいと考えています。

3点目は「組織強化」です。日本医師会の組織強化は、私が日本医師会会長に就任して以来、力を入れて取り組んで参りました。全国の医師会の先生

方のご尽力もあり、本年7月末には、初めて会員数が17万7000名を突破し、17万7170名となりました。ご協力頂いた先生方には深く感謝しております。

さらに、釜淵副会長は圧倒的な知名度がある他、地域医療に携わり、地域医療が抱える問題にしっかりと取り組んでおられ、幅広い人脈をお持ちです。今後更に人脈を築いていく能力も持ち合わせていると見ています。また、余人ももって代えがたい存在です。

取得には、医療・介護の候補者の中で、トップの得票である必要があると思われま

現在、釜淵副会長は国民の健康を守るための政治活動を全国展開しております。日本医師連盟は都道府県医師連盟・都市医師連盟一丸となって、釜淵先生を全力で応援して参ります。

「MAMIS」の導入により、こうした課題は解消に向かうものと考えています。医師会の組織強化の眼目は、現場に根差した提言をしっかりと医療政策の決定プロセスに反映していく中で、医師の診療と生活を支援し、国民の生命と健康を守ることに

取らなければ、医療・介護の候補者の中で、トップの得票である必要があると思われま

「MAMIS」の導入により、こうした課題は解消に向かうものと考えています。

4点目は「かかりつけ医療機能が発揮される制度の施行に向けた取り組み」です。

来々4月より「かかりつけ医療報告制度」が施行され、地域における面としてのかかりつけ機能の更なる発揮に向けた取り組みが始まりますが、その中で医師会にはさまざまなことが求められていくと考えています。

例えば、地域によって医療資源の事情は異なることから、各地域の実情を踏まえた取り組み例を収集・分析し、好事例を活用しながら各地域と情報共有することで全国に横展開することなどが挙げられます。

医師会がこうした使命を果たし続けていくには、更なる会員数の増加、組織率の向上を始めとする組織強化を通じて、対外的にも医師会のプレゼンスを一段と高めていくことが重要であるため、引き続き取り組んで参ります。

も求められるでしょう。これまでも日本医師会では「日本医師会生涯教育制度」や「日医かかりつけ医療研修制度」など、医師の先生方に対して多岐にわたる研修の機会を提供して参りました。「国民の生命と健康を守る」という医師の使命を果たすに当たり、全国の先生方に医学・医療に関する学びの機会を提供することは、日本医師会の責務だと考えており、引き続き研修の充実等に向けて取り組んで参ります。

5点目は「医師の偏在対策」です。医師偏在には、一つの手段で解決するような「魔法の杖」は存在せず、さまざまな手段を駆使して複合的に対応する必要があります。

また、今後、未曾有の超高齢・人口減少社会を迎える中、将来の医療を担う若手医師の声を傾聴していくことも重要になると考えています。

日本医師会は、8月21日に定例記者会見を開催し、医師偏在に対する見解を示しました。その中では、都道府県における議論とこれまでの地域医療対策協議会による医師派遣などの取り組みは引き続き充実させていくことを前提としつつ、国レベルでの具体的な方策として、基金の創設など

6点の取り組みを進めるべきだと提言いたしました（詳細については本紙第1511号参照）。

国民の生命と健康を守り、適切な医療を引き続き提供していくためにも、日本医師会はこの提言を基に、もう一段階ギアを上げ、医師偏在対策に主体的かつ積極的に取り組んで参りたいと思っております。

その他

この他にも、「自由診療の適切な運用」「医薬品の安定供給」「医師の働き方改革への対応」「2040年頃を見据えた新たな地域医療構想の検討」「一般社団法人立医療機関に対する非営利性の徹底」など、医療界にはさまざまな課題が山積しております。

デジタル医師資格証とは？

日本医師会が発行するスマホで使える電子版の医師資格証です。

デジタル医師資格証は、医師資格証（HPKIカードまたはセカンド電子証明書）をお持ちの方がご利用になれるアプリです。

医師資格証をまだ申請されていない方は、是非お申し込みください。

【デジタル医師資格証でできること】

- ・全国医師会研修管理システムで管理している講習会受講履歴と学習単位の表示
- ・電子処方箋発行のためのQRコード読取※お使いの電子処方箋システムがカードレス署名に対応している場合
- ・偽造防止策を施した医師資格証の券面情報の表示 など



医師資格証申込

検索



世界医師会(WMA)ヘルシンキ総会

角田副会長、渡辺・今村両常任理事が出席



フィリピンWMA新会長と



パネルディスカッションでコメントする渡辺常任理事

8回、パブリックコメント2回を実施し、議論が行われてきた。30カ月に及ぶ議論で作業部会が取りまとめた修正案が採択された。

今回の改訂では、研究に参加する個人の権利、主体性、重要性の尊重と、研究の有益性と価値について議論がなされた。その結果、脆弱な集団の保護の強化、臨床試験の透明性の向上、研究の公平性と公正性への取り組みの強化が規定された。

宣言全体を通じて「被験者」という記載が「参加者」に置き換えられた他、これまでヘルシンキ宣言はWMAの会員と関係者を対象としていたが、今回の改訂では、医学研究活動に携わる個人、チーム、組織を問わず、研究事業に関わる全ての人にこれらの原則を守るように求めるものとなっている。

また、研究者に対しては、脆弱なグループへの配慮や、研究がもたらす利益、リスク、負担がどのように配分されるかを慎重に検討するよう求められている。

「生殖補助技術に関するWMA声明」修正

(3) 社会医学委員会関係

採択文書

・「エビデミックとパンデミックに関するWMA声明」修正
・「大気質改善のための大気汚染の防止と削減に関するWMA宣言」

(4) 財務企画委員会関係

今後の会議開催

2025年・4月モンテビデオ理事会(ウルグアイ)、10月ポルト総会(ポルトガル)

(5) 学術集会

「健康と医療における

不平等—どう取り組むか」をテーマとして開催された。

「予防とプライマリヘルスケアによって医療の公平性を高めるためにはどうすればよいか」をテーマとして行われたセッションでは、渡辺常任理事が「日本の健康診断制度—医療の公平性への貢

献」について講演を行うとともに、パネルディスカッションにも参加した。

(6) その他

会期中、アジア大洋州医師会連合(CMAAO)ランチョンミーティングを開催し、意見交換を行った。

角田副会長、今村常任理事

ハーバード大学 T.H.Chan 公衆衛生大学院 武見国際保健プログラムを視察

角田副会長、今村常任理事は10月21日、ハーバード大学「T.H.Chan



中央から右に、後藤主任教授、バツカレリ学院長、ライシュ名誉教授

と、今後の活動等について意見交換を行った他、

武見プログラム(以下、武見プログラム)の視察を行った。

日本医師会は、同プログラム設立当初から支援を継続し、1994年以降は、ハーバード大学「T.H.Chan公衆衛生大学院」と5年ごとに覚書を締結している。

アンドレア・バツカレリ学院長、マルシア・カストロ国際保健・人口学部長との面談では、本年

お知らせ

日本医師会ではさまざまな国際活動を展開しています。その詳細は日本医師会のホームページに掲載していますので、ぜひ、ご覧下さい。



7月1日に武見プログラムの活動に対する支援に関する支援を更新したことに伴って、日本医師会並びに日本製薬工業協会からの支援に感謝が述べられた。また、武見プログラムの後藤あやむの主任教授と、今後の活動等について意見交換を行った他、

9名の武見フェローからそれぞれの研究テーマについて発表が行われた。同日夜には、高橋誠一郎ポストン総領事を招いて、後藤主任教授、マイケル・ライシュ名誉教授、ジェシー・パンフ事務局長、武見フェローとの懇親会が行われた。また、本視察に併せてニューヨークを訪問。米国日本人医師会の加納麻紀会長、カマル・ラマニ副会長、柳澤ロバート貴裕前会長、岩原誠元会長、加納良雄事務局長と懇談し、日本の医療制度や最新の状況について意見交換を行った。

第74代WMA会長が退任し、アショック・フィリップ・マレーシア医師会元会長が第75代会長に就任した他、次期会長にはジャクリン・キトゥルケニア医師会元会長が選出された。

総会における主な議事内容は以下のとおりである。

(1) 緊急事項

「プラスチックと健康に関するWMA決議」

WMAが、各国、特に第5回政府間交渉委員会(INC5)に出席している国々に対し、プラス

(2) 医の倫理委員会

採択文書

2022年4月のWMA理事会で設置された改訂作業部会の下、地域別及びテーマ別の国際会議

(3) 社会医学委員会関係

採択文書

「エビデミックとパンデミックに関するWMA声明」修正

(4) 財務企画委員会関係

今後の会議開催

2025年・4月モンテビデオ理事会(ウルグアイ)、10月ポルト総会(ポルトガル)

(5) 学術集会

「健康と医療における

不平等—どう取り組むか」をテーマとして開催された。

(6) その他

会期中、アジア大洋州医師会連合(CMAAO)ランチョンミーティングを開催し、意見交換を行った。

令和6年

秋の叙勲・褒章受章者

江澤常任理事が藍綬褒章を受章

政府は、このたび、令和6年秋の褒章受章者並びに生存者叙勲・賜杯受章者を発表しました。

日本医師会員受章者は次のとおり。

※敬称略

◎瑞宝中綬章

浦田士郎(元愛知県厚生農業協同組合連合会安城更生病院長)

丸谷建治(宮城県・元国立病院機構山形病院院長)

中村耕三(東京都・元国立障害者リハビリテーションセンター総長)

西田正人(茨城県・元国立病院機構霞ヶ浦医療センター院長)

福原 毅(大阪府・元ヘルランド総合病院院長)

三浦一章(青森県・元八戸市立市民病院院長)

和田裕一(宮城県・元国立病院機構仙台医療センター院長)

長田幸夫(宮崎大学名誉教授)

下條文武(元新潟大学名誉教授)

関根一郎(長崎大学名誉教授)

高須信行(琉球大学名誉教授)

塚本泰司(元札幌医科大学名誉教授)

小玉弘之(元秋田県医師会会長)

廣岡孝雄(元奈良県医師会会長)

地区医師会会長

小野壽太郎(長野県・元大北医師会会長)

神山公秀(長野県・元上伊那医師会会長)

川原裕一(鹿児島県・元川内市医師会会長)

木村好美(大阪府・元豊中市医師会副会長)

黒澤三良(福島県・元須賀川医師会会長)

小林昭彦(三重県・元松坂地区医師会会長)

佐藤 尚(宮城県・元栗原市医師会会長)

佐藤融司(香川県・元坂出市医師会会長)

澤田洋一(新潟県・元村上市岩船郡医師会会長)

白川敏夫(広島県・元安芸地区医師会会長)

関本幹雄(埼玉県・元川越市医師会会長)

津森孝生(大阪府・元河内医師会会長)

東保裕の介(大分県・元臼杵市医師会会長)

富永俊彦(元徳島県医師会理事)

長柄 均(福岡県・元福岡市医師会会長)

西尾好司(岐阜県・元土岐医師会副会長)

仁科盛之(山形県・元米沢市医師会理事)

平井賢治(佐賀県・元鳥栖三善基医師会会長)

藤政篤志(山口県・元玖珂医師会会長)

松平隆光(東京都・元小石川医師会会長)

松葉 明(石川県・元白山ののいち医師会会長)

丸山徳二(神奈川県・元茅ヶ崎医師会会長)

柳澤正敏(千葉県・元松戸市医師会会長)

伊藤 仁(広島県・元学校医)

上村伸一郎(東京都・元青峰会くじら病院院長)

内野孝子(東京都・元学校医)

築田不二雄(東京都・元学校医)

大戸武久(山梨県・元学校医)

金井 輝(千葉県・元東条メンタルホスピタル院長)

川島秀雄(茨城県・元学校医)

菅 大三(愛媛県・元学校医)

北原敏行(静岡県・元学校医)

木村泰雄(神奈川県・元学校医)

酒井健太郎(茨城県・元学校医)

三原武彦(三重県・元学校医)

宮田昭男(愛知県・元学校医)

守口孝和(秋田県・元学校医)

矢野幹夫(愛媛県・元学校医)

山田篤伸(福岡県・元学校医)

岡田 孝(埼玉県・元自衛隊医療協力者)

小林欣也(新潟県警察嘱託)

佐藤泰平(群馬県警察嘱託)

澤井 敬(大阪府・元学校医)

人保健施設「吹田徳洲苑」管理者

田中敬子(鳥取県・元学校医)

人保健施設「はまゆう」施設長

前川 滋(岩手県・元自衛隊医療協力者)

松元 俊(熊本県・元学校医)

通信病院眼科部長

峯 一彦(元宮崎県立日南病院院長)

岩坪 威(東京大学教授)

◆藍綬褒章

江澤和彦(岡山県・日本医師会常任理事)

草野博昭(東京都・三郷市医師会会長)

黒崎伸子(長崎県・黒崎病院院長)

佐久間正(福島県・元学校医)

人保健施設「啓寿園」施設長

澤井貞子(大阪府医師会理事)

関根 篤(秋田県・元学校医)

勸局地方労災医員

山口哲頭(神奈川県・元港北病院院長)

受章者名の掲載には細心の注意を払っておりますが、万一、お気付きの点がありましたら、日本医師会広報課までお知らせ下さい。

◎瑞宝双光章

伊藤 仁(広島県・元学校医)

上村伸一郎(東京都・元青峰会くじら病院院長)

内野孝子(東京都・元学校医)

築田不二雄(東京都・元学校医)

大戸武久(山梨県・元学校医)

金井 輝(千葉県・元東条メンタルホスピタル院長)

川島秀雄(茨城県・元学校医)

菅 大三(愛媛県・元学校医)

北原敏行(静岡県・元学校医)

木村泰雄(神奈川県・元学校医)

酒井健太郎(茨城県・元学校医)

三原武彦(三重県・元学校医)

宮田昭男(愛知県・元学校医)

守口孝和(秋田県・元学校医)

矢野幹夫(愛媛県・元学校医)

山田篤伸(福岡県・元学校医)

岡田 孝(埼玉県・元自衛隊医療協力者)

小林欣也(新潟県警察嘱託)

佐藤泰平(群馬県警察嘱託)

澤井 敬(大阪府・元学校医)

人保健施設「吹田徳洲苑」管理者

田中敬子(鳥取県・元学校医)

人保健施設「はまゆう」施設長

前川 滋(岩手県・元自衛隊医療協力者)

松元 俊(熊本県・元学校医)

通信病院眼科部長

峯 一彦(元宮崎県立日南病院院長)

岩坪 威(東京大学教授)

日医総研だより

物価高騰と医療機関運営

物価の上昇が止まらないう状況が続いています。物価を示す指標はいくつかありますが、多く使用されるのは「コアCPI」です。これは、消費者物価から生鮮食料品を除いて計算される指標です。生鮮食料品を除くのは、天候などによる一時的な価格変動でインフレ

が起きているように見えることを避けるためです。2010年代のコアCPIはほぼプラスマイナス0%の範囲内で推移していましたが、2022年頃から急激に上昇を始めた。これは、コロナ禍初期に需要が減少し物価が下

がった反動や、円安による輸入品価格の上昇が主な原因です。特に2022年10月から12月には、前年比プラス4.5%まで上昇しました。

インフレの上昇には二つの要因があります。

1. デイマンド・プル型インフレ(良いインフレ)

需要が増え、モノやサービス

の価格が上がることで生じるインフレです。

現在、大幅に増えている支出項目には、給食費、水道光熱費、外注費、物

品費、人件費などがあります。また、今後更に増加が予想されるのは、医療DX関連の費用(DX

機器、通信費、クラウドによる賃料と固定資産

税、円安による医療材料

費です。円安が進むと、これらの費用は今以上に上昇する可能性があります。

日本医師会は医療機関の現状を打開するために補正予算における補助金の大幅増による支援を要請していますが、今後の状況によっては期中改定も必要と考えます。

(日医総研副所長 原祐一)



日本医師会LINE公式アカウントを友だち登録してみよう!

ご自身のLINEアカウントをお持ちでない方は、LINEアプリをインストールの上、アカウントの作成が必要になります。LINEアカウントの作成方法はLINE公式サイト(https://guide.line.me/ja/signup-and-migration/line-signup.html)をご確認ください。



「LINE公式サイト: 使い方ガイド」

日本医師会LINE公式アカウントは、下記二次元コードを読み込んで頂くか、LINEホーム画面の「検索」から「@324vigsd」とご入力頂くと登録できます。



「日本医師会LINE公式アカウント登録」

日本医師会LINE公式アカウントでは、登録者の方に、講習会や研修会などのご案内や医療情報等を提供しています。ぜひご登録をお願いいたします。

日本医師会


総務課 03-3942-6481 / 03-3942-6477 / 人事課 03-3942-6493 / 施設課 03-3942-7027 / 国際課 03-3942-6489 / 医療保険課 03-3942-6490 / 介護保険課 03-3942-6491 / 広報課 03-3942-6483 / 情報システム課 03-3942-6133 / 会員情報室 03-3942-6482 / 電子認証センター 03-3942-7050 / 地域医療課 03-3942-6137 / 医療技術課 03-3942-6478 / 日本看護士推進センター 03-3942-7276 / 医事法・医療安全課 03-3942-6484 / 03-3942-6506 / 医賠責対策課 03-3942-6136

南から北から

徳島県
徳島県医師会報
NO.638より

一人娘マル

美馬 紀章



名前 マル
犬種 トイプードル 雌
趣味 ボール遊び
好物 肉全般、魚、蟹も大好きです。ドッグフードはいやいや食べます。
7年前、当時小学5年生だった次男が「犬が飼いたい」と言い出し、後日何となくふらっと立ち寄ったペットショップに彼女はいました。ショーケースの中で既に数カ月が経っており若干ディスカウントされていたことを覚えていました。ペットショップ店員は決定権のある家族と一緒に来ている客を見ると、すぐさま「抱っこしてみませんか」と誘いを掛けてきて、気が付いたら息子の腕の中に抱かれていました。そのなるとも息子はメロメロに。豊み掛けるように小学生の子ともに「連れて帰ってよ」と誘いの言葉を連発……。私も家内も大好きだったので、次男にきちんと世話をすることを条件に連れて帰ることにしたのが始まりでした。案の定、マルの世話をしたのは最初だけで、そのうち家内が世

話のほとんどを行うようになったのは皆さんの想像どおりかと思えます。芸はお手、おかわり、タッチ、伏せ、待て、ゴロンは覚えていますが、知らない人には全く愛敬を振りまくことはなく、知っている人にしか尻尾を振ることをしません。宅配のお兄さんには毎回吠えてしまっているところもありますが、番犬としてはある一定の役割を果たしてくれています。今まで実家や祖母の家で飼われていたポメラニアン、コーギー、シーズーと比べると格段に頭が良い印象を受けます。トイプードルは可愛さだけではなく犬の中でもトップ3に入るくらい頭が良い犬種だそうです。加えて、毛も抜けませんので大変飼いやすいです。初めて飼う方にはお薦めで、人気があるのもうなずけます。

犬のくせに冬はヒーターの前から離れず、冬の寒い時期には同じ布団に入って寝ており、寒さにめっぽう弱いお嬢様です。散歩もあまり好きではないようで、自転車が近くを通るだけでびくびくする始末。ドッグランで大型犬はもちろん、同じ小型犬にも恐る恐るにおいを嗅ぎにくく怖がりさんですが、猫と鳩にはやたらと強気に出る面もあります。非常に奇麗好きで、汚れているペットシートでは用を足そうとせず、シートを替えてくれと要求してきますし、散歩中におしっこをする時はアスファルトの上では流れて脚に付いてしまっているのが嫌なようで、決まって土の吸収の良い所を選んで用を足します。

次男が学校の課題で短歌を作ることとなり「しきなみ子供短歌コンクール」でマルについて詠んだ短歌「愛犬のマルのカットは美容院 僕のカットは家でバリカン」とサラリーマン川柳かと思うような内容で提出したものが、思いもよらず入選してしまいました。入選した短歌は全校生徒の前で校長によって朗読され、次男は恥ずかしい思いをしたそうです。


犬は家の中の序列を把握していると言われますが、普段の行動を見ていると彼女は下から2番目で、次男よりは上の位にいるようです。最初に飼いたいと言った言い出しっぺが序列最下位という皮肉な結果になっています。

そんなマルですが、もう7歳となり犬の中ではシニア犬になる年になりました。若干白内障がありそうで水晶体がうっすら白くなってきたいます。今、この文章を書いている私の足元で丸まって寝ている姿を見ていると本当に癒されます。家に帰ると尻尾を振って玄関まで迎えに出てくれ、抱っこしてくれとせがま

福井県
福井県医師会だより
第753号より

ライザップ

小久保安朗



肥満を患った人が体重を減らすためにライザップに通うと、最低30万円くらい必要で、細かく指導を受ける場合、更に追加で何十万円か必要だと、通った人に聞いたことがある。運動して食事制限をする必要があり、努力と我慢をするためにお金を払い、痩せた体を手に入れるという、ちょっと面白いビジネスモデルだと思つた。

自分は、努力するの我慢するの嫌いで、食べたい時に食べたいものを食べたいだけ食べる、を信条に生きてきた。昔羽田から小松まで飛行機で帰る際、空港で小さい「ごろやの羊羹」を購入し、乗る前に食べるか小

スマホ・パソコンでお手続きはカンタン!!

日本医師会 医師年金

Step 1 アニメーションで仕組みを確認

Step 2 シミュレーションで保険料を試算

Step 3 一括払専用加入申込書プリントアウトで申込み
(保険料のお支払いは後日ご案内します)



20220401S24

公益社団法人 日本医師会 年金福祉課 TEL:03-3942-6487 (平日 午前9時30分～午後5時) 医師年金ホームページ 医師年金 検索 https://nenkin.med.or.jp

第31回日本臨床分科医会代表者会議

各医会の現状や課題等について意見交換



第31回日本臨床分科医会代表者会議が10月31日、都内で開催され、日本医師会から今村英仁常任理事が出席し、伊藤隆一（日本小児科医会会長）を始め、出席した各会の代表者らと意見を交わした。

冒頭、あいさつした今村常任理事は、薬価問題について言及。薬価引き下げによる薬の供給不足や海外製薬会社の日本市場からの撤退などの課題

を指摘した他、スイッチOTC化についての日本医師会の考え方を説明し、関係学会・医会に対して候補成分に関する意見聴取への協力を求めた。

続いて、日本医師会事務局より、厚生労働省「医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議」の目的等について説明し、「OTC化候補成分に対する医会の見解を提出する際には、賛否を明確に記載して欲しい」と要望した。

続いて、13の医会から、各会での取り組みや現状、課題等について発表がなされた。

白根雅子日本眼科医会会長は、子どもの近視問題について触れ、文部科学省主導の3年間にわたる全国調査で、休み時間によく外で遊ぶ子どもが近視になりにくいという結果が示されたことを踏まえ、文科省が作成した近視に関する子ども向けの注意喚起冊子には、従来からある「明るい部屋で」「近くで」「見ない」「時々きゅうけい」に加え、「できるだけ外で遊ぶ」「という文言が追加されたことを報告した。

万代恭嗣日本臨床外科学会会長は、学会の二つの主軸である学会開催と若手外科医のためのセミナー開催について説明。セミナーは40歳以下の次世代の外科医を対象に、全国から100〜130名を集めて毎年開催しているが、外科医を志望する医師が減少していることを受けて、若手外科医の育成と確保に向けてセミナーの内容を改善し、世界で活躍する若手外科医の発表を取り入れるなどの工夫をしていることを紹介した。

石渡勇日本産婦人科医会長は、会員にHPVワクチンの接種推進への協力を積極的に呼び掛けていることを報告。同ワクチンの接種率低下により、日本の子宮頸がん発症率が増加傾向にあることを懸念しているとした上で、ワクチン接種と検診を徹底することで、2070年までに子宮頸がんを撲滅できる可能性があるというWHOの試算結果を基に、本会議参加の他科の医会にもHPVワクチン接種推進への協力を求めた。

川崎良明日本臨床耳鼻咽喉科医会長は、日本の難聴自覚率が他国と同程度（約10%）であるにもかかわらず、受診率や補聴器使用率が低いことを指摘。ACジャパンを通じて難聴啓発キャンペーンについて報告するとともに、より恒久的な運動として、必要に応じて補聴器の使用を推奨し、80歳で30デシベルの聴力を目指す「聞こえ8030運動」を展開していることを報告した。

佐藤好範日本小児科医会副会長は、日本の出生率が過去のベビーブーム時の3分の1以下に減少していることに触れた上で、「伴走型子育て支援の実現」「会員の育成」などに取り組んできたことを説明。また、災害等での心の傷を受けた子ども達の行動を理解し、早期に適切な対応ができるよう、冊子『子どもの心のケアのために』を作成し、1月の能登半島地震の際に、地域の小児科医を通じて子ども達の保護者に配布したことを報告した。

長谷川利雄日本臨床整形外科学会理事長は、医薬品の供給不足問題について、局所麻酔薬の供給不足が整形外科医療に大きな影響を与えているため、厚労省医政局長宛てに局所麻酔薬の安定供給を求める要望書を提出する考えを表明。また、局所麻酔薬が他科でも使用される薬剤であることから、各医会代表者との連携で提出することを提案し、協力を求めた。

三木和平日本精神神経科診療所協会は、日本外来精神医学会を設立し、9月に第1回学術講演会を開催したことを報告。一方で、急激な精神疾患患者数の増加やチェインクリニックの急増などの問題に対しては、認定医を増やして対応していく姿勢を示した。

清原久和日本院床泌尿器科医会長は、医会内で行った働き方改革に関するアンケート結果を発表。約50%の回答者が「大きな変化は無い」と回答し、40%が「困っていない」と回答している一方、「個別の回答では、医療機関規模に応じた課題が浮き彫りになっていることを説明した他、会員獲得のための新しい取り組みとして、AIを活用したチャットボットの開

発について報告した。

江藤隆史日本臨床皮膚科医会長は、被災地支援において、被災地における専門領域の医療ニーズを明確に把握することができるとあれば、日本医師会災害医療チーム（JMAT）本部が都道府県医師会を通さずに各医会へ派遣要請を行い、被災者に寄り添った医療支援ができるのではないかと提案。また、診療報酬に関しては日本医師会とも協力し、会員へ「外来・在宅ベースアップ評価料」算定の周知を行っていることを報告した。

山田恵日本放射線科専門医会・医会理事長は、創立50周年記念事業の一環として行われた有識者へのインタビュー記事に

ついて説明。専門医の数よりもクリニックが多い現状を指摘し、特に放射線科や病理など特定の領域での自由開業について問題提起した。

武田純三日本麻酔科医会連合代表理事は、麻酔科医療の現状について、全身麻酔の手術件数が1993年から2014年に掛けて約2倍に増加し、麻酔科医師数も1.8倍に増加したが、麻酔科医の絶対数はまだ不足しているを指摘。また、

一般・消化器外科、小児外科などの外科の専門分化に伴い麻酔科医の需要も変化してきているとした上で、心臓血管外科などの特殊な分野では、専門的な麻酔技術が求められているとした。

菅原正弘日本臨床内科医会長は、日本内科学会と共同で本年から7月1日を「内科の日」に制定したことを発表し、今後の事業内容については検討中であるとした。

また、診療報酬改定に関して、「かかりつけ医機能」「医療DX関連」に関する加算等について説明した上で、今後の課題として事務作業や設備等の経済的負担の増加を挙げた。

嘉山孝正日本臨床脳神経外科協合理事長は、診療所として開業した脳神経外科医は協会役員になることができないという協会規約が問題となっており、規約の改定の準備を進めているとした他、脳神経外科は他科と比べて医療スタッフとの連携がより重要であることから、協会内での医療スタッフの立場についても併せて検討していることを報告した。



日本臨床分科医会代表者会議 所属医会の活動⑦

※活動の詳細は各会のホームページをご覧ください。

日本放射線科専門医会・医会

●力を入れていること：専門医数の増加

日本放射線科専門医会・医会（以下、JCR）のミッションは「放射線医療の発展を通して国民の健康と福祉に貢献する」です。しかし、このミッションを完遂するには人数が圧倒的に不足しています。方策の一つとして診療放射線技師に画像の一次スクリーニングを付託する動きが出てきました。この業務の概念としてはナース・プラクティショナーのそれに近いものです。

かたや専門医の不足は何も放射線科に限ったことではありません。他の分野でも同様に不足しています。これは医師数の不足を意味するのでしょうか？ 大局的に見ると、どうも違うようです。なぜなら、政府は医学部の定員を縮小する方向に転じているからです。ではなぜ、このような一見すると逆向きの動きが生じるのでしょうか？

専門医不足の原因は「各領域の専門医が計画的に育成されていない」というところにあります。実は日本は国際的に見ても、かなり異質な医療政策上の方策をとっており、それは「どの診療科を選んでも自由」という放任主義です。これは自由標榜制とも共通する概念です^[1]。

通常、先進国では専門医数の上限が定められており、それを介して医療費の高騰を抑えています。コントロールの方法は三つあり、第一に政府が介入する方法（アジアに多い）、医師会によるコントロール（西洋に多い）、そして学会によるコントロール（米国）です。そのいずれも行っていないのが日本です。

JCRはこういった対応に対し異議を唱えています。しかし、この考え方には根強い反対もあり、引き合いに出されるのが「憲法22条（職業選択の自由）に反する」というものです。しかし、これは憲法解釈の誤りだということを『日医雑誌6月号』に載せました^[2]。

JCRはこのように専門医制度の将来について議論を深める場所となっています。

参考文献

1. What Has Caused the Shortage of Radiologists? Korean J Radiol. 2023; 24: 933-935.
2. 専門医制度に関する一考察. 日医雑誌2024年. 153巻・3号. 310



日本麻酔科医会連合

日本麻酔科医会連合は2021年に設立された新しい医会です。麻酔科での開業は少ないので、大学教授や大病院の責任者からなる地区麻酔科医会や麻酔関連学会が主な会員です。内部組織がまだ小さく、組織の充実に力を注いでいます。

本会の目的は、日本麻酔科学会関連で起きている手術件数の倍増、集中治療・ペインクリニック・緩和医療などへの麻酔科医の領域拡大によるマンパワー不足とタスクシフト、働き方改革等の問題点を、関連学会のリーダーの方々、行政などと正しく情報を共有することにあります。

近年、麻酔科医は増えたとされていますが、比率としては伸びても、絶対数が小さいため増加数も小さく、需要に追いついていないというのが肌感覚であります。

初期研修制度、新専門医制度、臨床研究法、医師の働き方改革など、一連の制度改革が行われてきましたが、この間に生じた研究力の低下に加え、日本の医薬品の輸入超過は3兆円を超えています。

また、医師の働き方改革では、教育・研究時間の制限や研究機関からの離職が懸念されている一方、医療の高度化や新しい技術は新たな分野を発生させ、医療ないしは多種多様な高度技術を有する医療人材に対する需要の増加を招いており、この傾向は今後も続くと思われま

す。麻酔科領域でもこれらの現象は起きており、特に医療の高度化は、麻酔科医の需要を増やしてきました。更に、研究力の低下は、日本麻酔科学会にとっては大きな課題となっています。

一連の制度改革が完了した今、失ったものを取り戻す時期と考えています。教育や研究・開発の基本は「人」と「人を育む体制」が重要となります。

日本麻酔科医会連合では、時間が掛かりますが若い医師に希望のもてる体制づくりと、人材の育成に力点を置きたいと考えており、日本医師会にはその支援をお願いしたいと考えています。



「日本医師会 赤ひげ大賞」拡大企画 特別番組「赤ひげのいるまち」を 公式YouTubeチャンネルで公開中

日本医師会ではこのほど、「日本医師会 赤ひげ大賞」の拡大企画として、特別番組「赤ひげのいるまち」を制作しローカルテレビ局で放映するとともに、その再編集版を日本医師会公式YouTubeチャンネルに掲載しています。

本番組は、赤ひげ大賞の事業を活用し、都道府県医師会並びにローカルテレビ局、太陽生命保険株式会社のご協力の下、地域住民に地域医療の課題を知ってもらうとともに、地域医療に関心をもつ医学生を一人でも多く増やすことを目的としており、今年度は、和歌山並びに沖縄両県医師会のご協力の下、2本の番組を制作しました。

和歌山県編では和歌山県立医科大学の学生が、第12回の赤ひげ功労賞受賞者で、自らの足で複数の医療機関を駆け巡り、白浜町の住民の生命と健康を守っている松尾晃次先生を、沖縄県編では琉球大学の学生が、同じく赤ひげ功労賞受賞者で、県外から移住し、村に一つしか診療所がない頃から30年以上にわたり読谷村の医療を守ってきた松嶋顕介先生をそれぞれ訪問し、地域医療の素晴らしさを学んでいる模様。他、平石英三和歌山県医師会会長、田名毅沖縄県医師会会長と両県が抱える医療課題等について意見交換している様子などが盛り込まれた番組となっています。

ぜひ、ご覧頂くとともに、本番組の周知にご協力をお願いいたします。



和歌山県編



沖縄県編



会員とご家族を対象に 映画「はたらく細胞」の 試写会を開催



映画「はたらく細胞」の先行試写会を11月14日、多数の応募の中から抽選で選ばれた約400名の参加の下、日本医師会館大講堂で開催した。

本映画は、人間の細胞を擬人化した斬新な設定で話題を集め、テレビアニメ化もされたシリーズ累計発行部数1000万部を超える大人気同名漫画を写真映像化したもので

ある。日本医師会が本映画の後援をしていることから、今回の試写会の開催が実現した。試写会は黒瀬巖常任理事の司会で開会。冒頭あいさつした松本吉郎会長は日本医師会の活動に対する日頃の支援・協力に感謝の意を示した上で、「この試写会が日々多忙を極める先生方の癒しに、また、ご家族へのサービスに、少しでもつながればと考えている。ぜひ、最後まで楽しんで見て欲しい」と述べた。

引き続きあいさつした釜淵敏副会長は、コロナ禍における会員の先生方の対応に改めて感謝の意を表明するとともに、日本医師会の素晴らしさを強調。日本医師会は今後もその医療を守り続けていくとした。その後は映画の上映が行われ、最後には抽選により15名の方に日医グッズをプレゼントして、試写会は終了となった。会場にはご家族連れの会員も多く、作品に感動して涙を流す学生の他、母親の説明を聞きながら映画を熱心に観賞するお子さんのほほ笑ましい姿なども見られた。

※今回の試写会に大変多くのお申し込みを頂き、誠にありがとうございます。本映画は12月13日(日)午前10時〜午後4時10分開催(日本医師会Web研修システム使用)。

◆主催：日本医師会
◆後援：厚生労働省(予定)、スポーツ庁(予定)
◆日時：令和7年1月19日(日)午前10時〜午後4時10分
◆開催形式：オンライン開催(日本医師会Web研修システム使用)
◆受講資格者：日本医師会認定健康スポーツ医
◆受講料：日本医師会員5000円(税込)、日本医師会非会員9000円(税込)

◆受講方法：受講者はご自身の端末(スマホでの受講は不可)から、日本医師会Web研修システムに接続し、リアルタイムで動画をご視聴下さい。その際には、講義ごとに、受講ログを記録します。

また、「視聴コード」を入力頂くことにより、出席確認を行いますので、必ず入力願います。
◆申込方法：日本医師会Web研修システムからお申し込み下さい(非会員の一部はGoogleフォームから申し込みとなります)。詳細は日本医師会ホームページ(https://www.med.or.jp/doctor/entry)をご覧ください。
◆定員1000名(先着順)

◆申込締切：令和7年1月13日(月)午後11時59分。ただし、非会員の一部は1月8日(水)午後11時59分まで。
◆主なプログラム：
・講演①：「スポーツに励む女性の健康問題」若年期から大人まで(仮)
(能瀬さやかハイパフォーマンンススポーツセンター)
・講演②：「健康スポーツ・研究部スポーツクリニック」

案内



第30回日本医師会 認定健康スポーツ医制度再研修会

・講演②：「高血圧患者に対する運動療法(仮)」(大屋祐輔琉球大学病院)
・講演③：「糖尿病患者に対する運動療法(仮)」(鈴木亮東京医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科学分野主任教授)

・講演④：「循環器疾患患者に対する運動療法(仮)」(木庭新治昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門・大学院医学研究科教授)
・講演⑤：「健康スポーツ医の活動の実践(仮)」(員原良太佐賀県医師会副会長、鳥居明東京医師会理事)

◆修了証：令和7年1月22日(水)午前10時30分
◆問い合わせ先：日本医師会健康医療第一課(直) / kss@do.med.or.jp

MAMISに関する問い合わせ先

本年10月30日に公開した医師会会員情報システム(MAMIS)に関する各種のお問い合わせにつきましては下記をご活用願います。

医師会会員情報システム運営事務局(コールセンター)
inquiry@mamis.med.or.jp
0120-110-030
(受付時間：平日10:00～18:00 ※土・日・祝日・年末年始を除く平日)

全国国民年金基金 日本医師・従業員支部案内

税優遇の適用に必要な「社会保険料控除証明書」をご確認下さい

国民年金基金の掛金は、全額が社会保険料控除の対象となる税制上の優遇措置が講じられています。この度、本年中に掛金を納付された皆様には「社会保険料控除証明書」を発送しましたので、ご確認ください。

控除証明書は、税控除の適用を受けるための年末調整や確定申告の手続きの際に必要となりますので、大切に保管して下さい。

万が一、控除証明書を紛失された場合など、再交付が必要な際は、基金事務局までお問い合わせ下さい。再交付申請書は、WEB上からも入手できる他、WEB上でも再交付の申請手続きができます。また、電子交付も可能となっています。

社会保険料控除では、生計を同じくするご家族の掛金を実際に負担された方の所得から控除することができ、ご家族の中で所得の多い方が負担された場合、税優遇の効果が大きくなります。ご家族のご加入についても検討下さい。

